

令和 5 年 9 月 24 日
＜佐々木 朗 JH8CBH＞

第7回北海道ハムフェアに参加して

- 1 事業名 第 7 回 北海道アマチュア無線フェスティバル 北海道ハムフェア
- 2 主催者 一般社団法人 日本アマチュア無線連盟北海道地方本部
- 3 日時 令和 5 年 9 月 23 日(土) 13:00～17:00 9 月 24 日(日)9:00～16:00
- 4 場所 札幌市東区北 6 条東 4 丁目 1-7 デ・アウネ札幌

5 まとめ

コロナ禍になる以前に、この施設の以前の建物である札幌総合卸センターが会場であった時分に一度参加したことがある。

現職の時も、アマチュア無線関係のイベントは土、日で組まれることが多いので行って行けないことはなかったが、「疲れを取る」時間を考えれば、参加を見送ることが多かった。

退職してからは、八戸で行われた青森県支部大会、そして昨年、今年と東京ハムフェア、そして、今回の北海道ハムフェアに参加することができる余裕が生まれたことはとても良かったと思う。

また、地元でも、公開運用や研修会、子どもたちのためのイベントの企画実施をできることができたのはこれもまた、良かったと思う。

さて、今回の札幌でのイベント。参加の大きな目的は2つである。一つは私の所属しているKCJ(全国CW同好会)の会員



として、出展するブースをお手伝いすること。そしてハムフェアと同じく、各ブースを回り、アマチュア無線の振興発展に関することを学び、実践に生かしていくことである。

感じたこと、思ったことをまとめる。

(1)無線以外偏

①行き

往復は当然ながらJRである。なぜかという、JR が好きだから。まして、一人で札幌往復を車で運転するなどは、考えもしないことである。最初前泊しようと思ったが、作業開始が 11 時ということで、当日の朝 6 時発の特急に切り替えた。時間通りきちんとと停車駅につくのが小気

味いい。この区間は単線、あとは複線、などと一般の人にはどうでもいいことにこだわりながら、線路を見ていた。今金時代にうつ秒になって札幌大谷地の病院に通った時によく JR を使ったのも今となっては懐かしい思い出となる。

札幌駅ではだいたい改札を出たら南口へ向かう。しかし今日は北口へ。北海道総合通信局こそわかるが、あとは、ほとんど未知の世界。さらに、駅裏周辺はあっちこっち工事中。さらに、超高層マンションの建設ラッシュである。最近建設現場で事故があったこともあり、クレーンが倒れたらどうしようか、建設中のビルが倒れてきたらどうしようかと、心配しても始まらないことに、警戒しながら歩いた。

会場について、メンバーと合流して、ほどなく、スクールと呼んでいいような豪雨。傘も持たずに来た私にとっては、ぎりぎりセーフであった。

②昼ごはん

デ・アウネ自体には食堂がないので、仲間と外へ。目の前にあるラーメン店は長蛇の列。駅前の方向に向かうと食べるところはあるだろう。ところが、先ほど申した通り、途中は工事現場ばかり、結局のところ、札幌駅ビルの中の見晴らしのいいレストランへ。「いらっしやいませ。」と水を持ってきてくれたのは、とてもきれいなお兄さん？、もしかしたらお姉さん？どうみてもお姉さんなのですが、お兄さんにも見える。どっちだってそんなことはどうでもいいこと。その方が気に入って生きていけば。今はそういう時代なんだなあと思った。おいしいパスタをいただいた。

③懇親会偏

札幌駅の北口付近の串店。7人のKCJメンバーと懇親会。私が北海道地区の代表ということで、乾杯の音頭を取ることに。たくさん串を食べました。釜めしもおいしかった。。徳島のすだちもいただいた。そして、会のメンバーのこと、CWのこと、DXのこと、KCJのこといっぱいおしゃべりした。あつという間の楽しい時間でした。私はお酒が飲めないので、お茶とジュースを飲んだ。

④宿泊編

「夜は寝るところがあればいい。」ということで、安さで宿を選んだ。地下鉄すすきの駅から歩いて15分位。スマホのナビが細い道を示している。「こんなところにホテルある？」発見。小さな看板。普通の家を広げたような



ところ。フロントの方がやさしく迎えてくれた。前金3000円を支払い、風呂やシャワー、洗面所、トイレなどを教えてくれた。「お部屋はこちらです。」案内されたお部屋は、2段ベッドが二つと、布団が一つ。5人部屋だった。。誰もいなかった。。良かった。ゆっくり寝れる。でもよく見ると、ベッドの上に荷物がある。「皆さん出かけていますから。」、そっか、そういうことなんだと思った。さすがにそこで「CQ」はできないので外へでて、無線を楽しみ、帰ってくると、何人か戻ってきて、ちょっとお

しゃべりをして寝た。夜は、ゲー、ガウォー、グァー状態。私だけが静かだったなどとは決して言わない。寝ることは寝れましたが、ちょっとチョイスを間違えたかなあという感じだった。。私がチョイスを誤ったということで、この施設がどうのこうのという気持ちは全くない。

⑤移動運用編

宿から外出して、そのへんで無線をやることにした。。パソコンも持参できる状況でなかったなので、メモ用紙に書いた。その日は2m でラグチュウになったので1局だった。

次の日の朝は、そういうことで寝てられないので、明るくなるとすぐに宿を出て、大通りまで歩いた。声のかかりは良かったとは言えないが、数局と交信することができた。でも申し訳ないぐらいしつこくCQを出してしまった。家ではVUHFは、CQを拾うことが多いのだが、今回もやっぱり思った。できるだけCQは取ってあげよう。「函館はだれも出なかったよ。」などと決して思わないようにしよう、って。

⑥大通公園偏

駅前通りと大通り公園が交差するあたりは、修学旅行に子どもたちを連れてきた時も、去年の暮れ、事務所を閉めると聞いたラジオ少年に



挨拶に来た時も、ここに来たなあというところ。花壇と、銅像と、札幌テレビ等が見みえる。たぶん、ここにある銅像は、むかし昔、札幌駅が青いビルだったころ、南口にあった銅像が移設されたんじゃないかなあと思った。子どもの頃の思い出がなんとなく重なります。

そして、目の前にはよく「35度」とか映し出されるビルがありました。「ああ、ここだ。ここだ。」と見ていました。16度になっていました。

そして、ベンチに座ってちょっとCQ。まだ6時ちょっと過ぎ。周りを見ると、たばこの吸い殻、おにぎりの包み、ペットボトルなどがあちらこちらに落ちています。お掃除開始です。小さなレジ袋をリュックに入れてきたので、それをいっぱいにしては、近くのゴミ箱に分別して捨てるという作業をしました。自分が座っていた半径何十メートルかは芝生の中も含めてきれいになりました。「たばこ禁止」って歩道に印刷してあるのにね。と思いました。

⑦駅前

大通りからさらに北へ向かって歩いた。赤レンガは改修中で、大きなテントで覆

われていた。それも赤レンガの絵が描かれていた。少しずつ車通りも多くなってくる。北口側が工事ラッシュだ



ったのに比べると、南口は落ち着いている感じだ。電気店や雑貨店、食堂街があるエスタもそろそろ見納めなのかなあと
思って、一枚映した。

⑧お昼ご飯編

お昼はもう2時近くになって、デ・アウネに直結するコンビニにしようかなあと
思ったが、昨日の行列ができていたラーメン店を思い出し、足を運んでみた。店の前には開店を祝う花が並んでいた。行列はなし。すぐに入ることができた。ラーメンが1000円か。とちょっと高いかと思ったが、諦めて出ると、コンビニに戻るか駅まで行くかになるので、そこで食べることにした。若者たちで経営していた。ラーメンはとてもおいしかった。普段は、塩分取りすぎを解消するため、心してつゆを残すのですが今回は、底がきれいになるまで、全て飲んでしまったくらいのおいしさだった。

⑨この看板はないっしょ

会場の近くの工事現場の入り口で見かけた。アマチュア無線を業務に使っていると疑われる局は確かにいる。でも、こんな看板を工事現場の入り口に掲げたら、あたかもアマチュア無線家の多くがこのような使い方していると誤解されると思う。少なくとも



も多くのアマチュア無線家はこの看板を見たら、嬉しい気持ちになる人はいないので
はと思う。また、広く一般市民に対してのアマチュア無線へのイメージも下がる懸念がある。違う方法で周知してほしい
と思った。

⑨帰り偏

デ・アウネの机と椅子の後始末をお手伝いして、わが KCJ メンバーともお別れしたのが午後4時頃。「18時過ぎまでまだ時間があるなあ。何しようかなあ。」と思った次の瞬間、「ひとつ前の列車に間に合うか。」と思って調べてみると、16時51分にある。ちょっと速足で、歩いて、緑の窓口で切符を換えてもらい、大丸の地下へ。ちょっと贅沢な弁当を購入して、余裕で乗車。新幹線だったら、ここからレポート執筆になるわけですが、電源がないため、しばし休養。札幌発の時は8割ぐらいまで埋まっていた。新千歳空港でマックスになり、ほぼ満席状態。途中、対抗列車が鹿と衝突し、20分ほど待たされるという小さなトラブルもあった。だんだん、お客様の数も減り、新函館北斗では、盛岡行の新幹線の発車時刻すれすれにセーフ。五稜郭で大部分のお客さんが降り、終着函館では、閑散とした感じで、旅を終えることができた。

「お祭りのあと」とも言える何とも言えない寂しさ、疲労感、充実感を味わったが、これらは、再起動することによって、全てエネルギーに変わるものと思う。。そしてこのような気持ちになるだけ、しっかりと参加できたことは良かったと思う。このようなイベントに参加できて良かったと思った。

(2)KCJ ブース編

①キーを触る人

「どうですか。いろいろ電鍵あります。音が出ますので、触ってみてください。」振り向く人、素通りする人がいる。「どれどれ。」と立ち寄る人の第一声(第一音)は、だいたいトトツ(V)。これで感触を得た方は、「CQ CQ」と始まるか「DE JA8〇〇〇」とコールを打ってくる方が多い。もちろん私は打ったコールは取れるので、「大先輩ですね。もう開局して50年以上経ちますよね。」とか「1エリアからいらっしやっただのですね。」などと声をかけると、話が弾んでくる。

全く、モールスがわからない方には、「有名な SOS の信号はこういう符号なんです。」みたいなどころから口火を切っていた。

私のブース勧誘は、件の通り、電鍵を触ってもらうことから始まる方が多い。

今回は4つのキーを準備した。縦振りが2つ。マニピレータが2つ。一番左は、全て手作りのマニピレータ。普通は、くるくる巻きのバネを使っているのだが、このキーは、板バネ。支点が2か所あって、その真ん中に板バネがあり、接点があるというもの一枚羽だが、叩き心地はいい。個人の作ということだがどう見ても、素人とは思えない作りとなっている。



左から2つ目スウェーデン製のキー。これも叩き心地はいい。私は、「見たことがある。」程度だが、ブースに立ち寄ったOMの方は、「これ、スウェーデン製ですよね。」と話しかけてくる方が多かった。持っているとまで言った方は、いなかったように思う。オークションなどでも「万」を軽く超える価格で取引されていた。

左から3番目のマニピレータは、全部が金属製。二枚羽である。これも打ち心地はいいのだが、布の上だったので動いてしまうことが多かった。私が軽く押さえてあげるとパラパラと符号を打つ方が多かった。このキーを触った8割ぐらいの人がなぜか、裏をひっくり返して配線状況を見ていた。何か気になることあるのかなあと思った。

そして一番右は、縦振り。ふつうの電鍵に人工大理石を付けたもの。これも、コツンコツンというたたき心地は良かった。

②縦振り(縦振れという表現もありますが、振りの方が多いようです)か横か

こうやってキーを4つほど置いていると、上級者は、縦の良さを語り出す方が多い。私も縦振り愛好者の一人なので、ごもつともごもつとも話を聞く。ご自慢のキーのことを話される方、キーを作ったというお話、リズムの良い音、くっ付いてなかなか符号がわからない大OMの話、みんな「あるある」で、うなずいて聞くことができる。

「これから電信を始めたいけれど、どっちがいいでしょう。」という質問を何回か受けた。私自身は、縦ぶれで始めた。高校生の時、お小遣いを何か月も貯めて、千代台のだるま屋で買ったハイモンドの

HK-808(写真右)は、今でも健在で、和文を叩く時は

もっぱら、縦振りである。左は同じくハ



イモンドの MK-8。これは大学生の頃、2mのFMでモールの講習をしていた時にローカル局からプレゼントしていただいたものである。私のCWはほとんどがこちらからの送信となっている。両方とも、かれこれ40年以上の付き合いである。

私がアマチュア無線を始めた中学校3年生の一年以上前に、中学校の部活でモールスを仕込まれた。「モールスも知らないでアマチュア無線を語るな。」の時代であった。キーは縦。縦できちんと打てない者は、横でやるのは邪道、みたいな時代でもあった。だから、私は、基本は縦振りだと長い間思ってきた。国家試験には、当時は受信の他、送信試験もあり、横振りの持ち込みは可とされていたが、多くは備え付けの縦振り電鍵を使って試験を受けていた。

「それって、もしかして違うんじゃない」と思うようになったのは、私のアマチュア無線の歴史から考えると、最近のように思う。考えが変わって来た。確かに縦ぶりは基本だと思う。そして、人間らしい符号が打てる。しかし、正確な符号を打つには、きちんと誰かに教えてもらう(ネット情報でもいいのだが)ことが大切で、また、正しい符号が送出されているか、聞いて

もらう必要がある。つまり縦振りは、打ち方はとても深く、また「難しい」ということである。自己流になってしまうと、なかなか治らない。相手がとりづらい信号を出してしまうということになる。縦振り使っていて、コールサインをよく聞き返される方、また、CQを出しても応答率が低い方は、このへんを振り返ることも時には必要でないかと思う。

一方、マニピレータを使うと、正確な1:3の符号を送出できる。初心者も少し練習を積むことによってマスターすることができる。慣れればつまみ一つで少しずつスピードを上げることもできる。縦振りで悩むよりも、横振りに慣れて上達した方が、トータルではいいのではないか、そして、興味があったら縦ぶりなどにも手を出してみるのもまたいいか、それが私の今の見解である。

③和文が好きでたまらない

ブースにきて、キーを触ったかと思うと、ホレ コンニチハ。」と打って来た方がいた。「和文は楽しいですよね。」と話しかけてくる。年の頃からして大先輩っぽい。KCJは、欧文が専門というので、「和文できるの？」という雰囲気は私は、感じた。「こんにちは。から始まる和文も楽しいですよね。」と返したところ、ちょっと視線が柔らかくなった。欧文は得意だが、私は和文も多少なりともできるのである。私が一アマを取った時には、和文の電気通信術はなくなったが、「和文のできないアマ」と言われるのがたまらなくいやで、がんばって覚えた。当時は、函館モールス同好会があり、そこで私は和文を鍛えられた。もっとも過日の OEM の話などを聞

いて見ると、KCJ メンバーの中でも、多くの会員は和文も大丈夫(なんとかかかなとかも含めて)のようである。

話を聞くと、毎日、ほとんど和文でオンエアされているそうである。たぶん 7 メガだと思うが、いつも出ているとなるとほとんどつかがる方はお馴染みさんということになるであろう。ちょっとした季節の話題などを一言二言交わす通信であろう。それでも、文のあちらこちらから人柄がにじみ出るものである。北海道の、また、全国の和文の集まりなどでは、旧知の仲のように酒を酌み交わすということも見て来た(私が函館モールズ同好会の事務局長時代函館で会を実施)。確かにいいものではあるが、時間がかかるということで、電信ではせっせと交信したい私にとっては、和文は最後の一言ぐらいがちょうどいいというのが私の実感である。

④和文って覚えた方がいいですか。

この質問も何回か受けた。覚えないうちは覚えた方が楽しみは広がることは間違いない。久しぶりに会っても、「FB FB」がいいところだし、「GLD CU AGN IN 20 YEAS」もとっさには出てこない。まして、「OHISASIBURIDE URESHIDESU」では、おそらく相手もびっくりして取れない。

欧文のコミュニケーションに限界を感じ、もっといっぱいCWでお話したいなあと思った時が覚え時かなと、私は話す。欧文がまだ、ままならないうちに和文に手を付けるのはお勧めしない。和文と欧文の両方をやる方ならだれでも持っている、和文と欧文の頭の中のスイッチが、勝手に和文になっているはずなのに急に欧文に切り換わったりするからだ。

和文は、どっぴりつかる方が多いだけあって、とても魅力ある通信方式である。CWに出合ったら、いつかは和文にも挑戦してほしいと思うのが私の思いでもある。

⑤みんな速くて出れないんです。

比較的新しいコールの方。「なんとか符号は覚えました。でも、みんな速くて速くて、とつてもついていけません。ゆっくり打ってくれる人はいないもんなんでしょか。」確かに 10WPM ぐらいのゆっくり速度で通信している人はなかなかお見掛けしない。これとは別な話だが、ゆっくりCQを出していると、めちゃくちゃ速く打たれて、まるで、「もっと速く打て、もっと上手になってから電波を出せ。」のように聞こえる応答を受けたという話も聞いた。無線局運用規則第 15 条「送信速度は、受信者の技量その他相手局の受信状態に応じて調整しなければならない」を引き出すまでもなく、相手がゆっくり打っていたら、ゆっくり打ってあげる優しさを持つてほしいと思う。

私はこの2年間 ZOOM を通して全国の方にモールズを教える機会を得ることができた。そのことがあり、初めて 7 メガでドキドキ感を持ってデビューする方の相手をたくさんさせていただいた。そんな経験から、時々、7メガで 10WPM の超スローでCQを出す機会を大切にしている。ゆっくりCQに対して、普通の速さで呼んでくる方にはそれなりにスピードを上げて対応している。ゆっくりな方には、その方に合わせる速さでゆっくり打って差し上げる。そうすると、意外に、初めての局との交信の割合が多かったりする。つまり、

ゆっくりとした局を探しているということは実際にあるということである。

また、「70 の手習いで何とか取れるようにはなったのですが、デビューがこわくて。」という方のお話も聞いた。誰でも通過する過程である。ZOOM で模擬 QSO を何度かしたとしても、いざ 7 メガでやるとなると、全然違う。心臓ドキドキである。でもこの壁を乗り越えないと次のステップには進めない。「符号を覚えたんだけど・・・。」で終わってしまうと、せっかく覚えた符号もいつか、だんだん記憶の片隅に追いやられてしまう。これから始める方は、是非第一歩を踏み出す勇気を、そして、諸先輩は、飛び立つか飛びたくても、躊躇している人をいかに引っ張り出すかを考えてほしい。

何人かにお話したが、例えエレキーだとしても、相手が、すらすらと打っているか、手に汗をかきながら打っているかは、私は相手の符号を聞いただけで、相手の顔の表情まで感じるができる。相手が CW を受け入れてくれるか、「私には無理！」って思ってしまうかの瀬戸際である。初めての方には、うんと優しく接してほしい。それを乗り越えたら、あまりゆっくりな方がいないということは、すぐに上達するということも言えることになる。

⑥「JH8CBH 佐々木さんがいる！」

「函館の佐々木さんですよ。」と親しみを込めて、ブースに立ち寄ってくれた方の数は結構多かった。中には「ブログに KCJ の所にいらっしゃるということで来ました。」という方も。まあ、無線は長くやっているもので、アクティブにオンエアされている方であれば、フォーンも CW も大

丈夫な私は、だいたい一度や二度は交信したことがある方がほとんどである。中には、「一緒に写真撮っていいですか。」とお願いをされる方もいる。なんか売れっ子の芸能人もどきになったような気もして、もちろん撮影には応じたが、嬉しいやら小恥ずかしいやらである。とにかく数だけは多く交信しているので、相手が私のことをわかっている、私は、「コール見たことがあるような気もする。」ぐらいで具体的に話をこちらから突っ込んでいくことができず、もどかしい感じをしたこともあった。

一方、相手のコールを見ただけで、私の頭の回路が、すぐにつながる方もたくさんお会いすることができた。CW で何回も何回も交信した方、遠い昔私の赴任先でお世話になった方、講習会の情報をメールでやりとりした方、私のビデオを見て、一アマ、二アマを取ったという方、さらに、私の「1KWへの道」を読んで、1KWに合格したなどと、お礼を言ってくださる方も何人かお会いすることができた。こうやって直接お礼を言ってくださると、私の生涯のライフワークとして、アマチュア無線の発展のための有用な情報を提供するという仕事も、成果はあがっているんだなあということを感じた。

⑦ZOOM CW 講習会の仲間も

「先生、お世話になりました。」とブースに立ち寄って下さったのは、札幌市内の JA8CXM 相馬さん、それと JM8ROS 川尻さん。令和 4 年度の ZOOM CW 講習会の受講生だった。JARL 渡島檜山支部のモールズ講習会の歴史は長いですが、ZOOM を使って全国の皆さんに呼びか

けたのは、令和 4 年度からで、2年間継続の事業となっている。令和 4 年度は 27 名、令和 5 年度は 11 名が受講され、修了証を手に入れている。オンエア環境のある多くの方が 7 メガでの CW での交信実績をある。

特に、自分より無線歴がある、つまりコールサインが古い人は、私にとっては先輩になる。まして、JA8 の初めの方の方となると、お話するだけでもちょっと緊張する。そのような方が受講生として講習を受けるということで、整理してもなかなかドキドキを抑えきれない中のスタートであった。他にも、私より無線歴が多い方も多く、また、年齢的にも、受講される方より教えるの方が若輩という逆転現象も多かった。

相馬さんには、講習会終了後も、上級試験の解き方で、何回か教えてもらった私にとってはとても頼りになる受講生の方である。

でも「先生。」って呼んでいただくのはこそばゆくもあり、とても嬉しいものであった。記念に写真を撮らせていただいた。



相馬さん、川尻さん、ブース訪問ありがとうございました。

⑧若い方の CW マスターは早い

「音がでるのでちょっとやってみませんか。」大学生位の若者に声をかけた。私の前にやって来て、いきなり打ち始めた。「DE JM8***」、びっくりした。それもきれいな符号で。話をしていると、お父さんがアマチュア無線を楽しんでいて、その影響で、おじいちゃんも、その方も無線を楽しむことになったそうだ。CW は家庭環境もあり、すんなりと覚えたそうだ。私も子供の頃覚えたので、あまり苦勞した覚えもない。現在地域のクラブにも参加し、幅広くアマチュア無線のことを勉強し、楽しんでいるということ。若者の成長に期待したい。

(3)各ブース探検編

①非常時のアマチュア無線

紋別市の有志が「災害時のアマチュア無線」をテーマに、ブースを出していたので、立ち寄った。報道関係の方と医療関係の方が担当されていた。まさに非常通信に欠かせないメンバーであるともいえる。テーマは「アマチュア無線の社会貢献、災害時にいかに役立てるか。」を掲げていた。

同市では、現在災害時の非常通信体制について、関係機関にPRし、連携を打診しているところだそうです。また、懐かしい無線機が並べられていた。

お話を伺うと、やはり、日頃の備えが大切ということで、その一つとして、ハンディ機の充電システムについて説明して下さいました。いわゆるスマホの充電用の電池は、かなりコンパクトで容量が大きい。しかし多くの無線機の充電使用は 12V であり、

5Vの電池では無線機への充電が難しい。展示では昇圧機を使って、USB ケーブルで電池と昇圧機を結び、さらに昇圧機から無線機の充電端子につなぐプラグが取り付けられていた。昇圧機は、1cm×4cm、厚さが5mm ぐらいの小さな基盤でそれでも 1A ぐらいの出力が取れるということであった。ハンディでは、LO パワーだと、対応できるということであった。さっそくアマゾンを見てみると、安価でたくさんの商品が出そろっていた。早速一つを選び、マウスをプチッと押した。

JARL 渡島檜山支部では、災害時に函館市と連携することが防災計画にも掲載されており、

https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014022500262/files/03_keikaku-honpen201803.pdf 70 ページ下

こちらも非常通信伝達訓練を行い、災害時に備えているなどのことを話し、懇談を深めた。

私も非常通信伝達訓練を何回か企画運営する立場にあったが、感じたことは、万が一の事態が起こった時、どれだけ非常通信手段としてアマチュア無線のことを思い浮かべるかということである。もう少し突き詰めて考えると、何かがあった時、「自分にはアマチュア無線がある。今の状況では、自分は非常通信ボランティアとして活動することができる。」という意識が持てるかどうか、カギだということである。私自身は、お陰様で、その習慣が付いた。小さな地震があった時、警報が出た時は、2m、430をワッチするという意識が身に付いた。ハンディ機は常に完充電して、準備しておく習慣もで

きた。発発も月に一度程度は試運転している。そのせいかわからないが、スターターを軽く一回引くだけでエンジンはかかる状態になっている。

令和3年3月10日公布・施行の「アマチュア無線の社会貢献活動での活用に係る基本的な考え方」では、「災害や地域イベントなどのボランティア活動等でアマチュア無線が利用できます」と明記された。非常通信については、これまで通り電波法第52条4項に示されており、変更がないが、この考え方により、非常通信とまでいかななくても、災害時及び災害が復旧するまで、アマチュア無線の活用が可能となった。今後、関係する職員はもとより、災害ボランティアや、町内会・自治会の担当者なども免許を取るきっかけとなり、非常時に役立てていただくと共に、アマチュア無線の楽しみも味わってもらえることにつながるのではないかと期待している。

②APRS

APRS とは Automatic Packet Reporting System であり、アマチュア無線を用いた位置情報発信システムである。位置情報を発信することを可とする設定をすると、位置情報が地図に表示され、誰でもが見ることができる。過日の東京ハムフェアでは、このことが、万が一災害に巻き込まれた時の場所の特定などに役立つことを学んだ。特に登山者にとっては、山中奥に入るとケータイ電話のサービス圏外になることが多く、このアマチュア無線機を持つことによって、万が一の遭難などにおいても、機能が発揮できるであろうということを知った。

ところが、今回、ブースの方と、災害時の APRS についてお話すると、違う角度からの情報をいただき、ショックを受けた。その方のお話によると、APRS のついた無線機には、emergency ボタン(緊急通報ボタン)がついているそうである。緊急ボタンが押され、ゲート局がその信号を受信すると、直ちにその位置情報が地図に示される。その情報は国内に留まらず全世界に伝わる。JA(日本)から発射されるほとんど全ての緊急信号はいたずら、もしくは「うっかり間違えて」だそうである。さらに、間違った場合に対する「取消」のボタンもついているそうだが、誤報を知らせる信号もほとんど発信されないという現状があるそう。国内では、このような信号は「無視」。海外からは、「何で助けに行かないのだ。」という指摘も来るが、その方には、「無視して下さい。」と広報しているという。何と情けない話なのだろうかと思った。99%が誤報だとしても1%は命がかかっているかもしれない。真偽を確かめる行動をとらなければならないのではと思った。また、当然ながら、無線機には識別符号が付いているわけで、誤報であったとしても、繰り返さないよう、指導はできるのではないかと感じた。誤報が手に負えないだけあるのかまでわからなかったが、緊急通報を無視するよう全世界に発信している担当者の心は私以上にむなしいのだろうと感じた。

このような負の側面も含めて、APRS は、災害時の発生場所の特定には有効であることは間違いない。東京で学んだ「山」のお話の他、今回は「海」の話も聞いた。海上でのトラブルなども結構あるそうであ

る。

こちらも含めて、関係者にアマチュア無線の免許の取得などを訴えていくことも今後の展開の一つであろうと感じた。

③小樽アマチュア無線クラブ JA8YAA

コールサインを見ての通り、北海道で初めて免許された社団局である。昭和30年6月に発足のクラブ局である。このクラブは、現在小樽市総合博物館に設置され、博物館には、大きなアマチュア無線用のアンテナもあがっている。さらに素晴らしいことに、定期的なアマチュア局の運用はもちろん、講習会の企画、そして、電子工作などの青少年育成を図っていることである。公的な機関における設置のメリットを生かし、幅広く活動している。たくさんの方を今後もこのクラブから学んでいきたい。

④札幌アマチュア無線クラブ JA8YAB

これも小樽に次ぐコールサインからすると北海道で2局目の社団局となる。35年ほど前には札幌には数多くのクラブ局があったが、それらが話し合いの上連合となり、JARL 札幌アマチュア無線クラブとなったという話を聞いた。

このクラブは、イベント時の無線を利用したPR活動、クラブ局の公開運用、そして非常通信の訓練なども行っている。さらに、JARL 石狩後志支部と連携しながら、ジュニアハムの育成にも力をいれているということを知っていた。今後もこのクラブから学ぶことも多いと考える。

⑤日赤無線奉仕団

この団体は、講習会開催に力を入れているそう。現在では「鉄砲撃ち」の方が免許を取ることも多いそうだが、一般市

民の受講も多いということだ。講習会事業は盛況ということであり、アマチュア無線を目指す方は潜在的にまだまだ多いということを感じた。

現在は、業務無線を使っているが、札幌マラソンの通信を担っている。

毎月第3日曜日は、会館に集まり、研修会を行っている。

⑥パイコンカルアンテナ

初めて見たアンテナである。銅管を使っているので作りはかなりがっしりとしていた。特徴とし



て、帯域幅が非常に広いということだ。430メガ用に作ったということであるが、1200メガや145メガも電波が乗るとのことである。

今年最後のブース出展ということであった。気持ちはちょっと揺れたが、きっと飾り物になってしまうと思い、購入に踏み切れなかった。

⑦和文の同好会

札幌では、和文のロールコールを日曜日に2mで行っているそうである。十数局がオンエアしているという。聞いているだけでも、とてもよい練習教材になると思う。この日は、仲間が集まって、和文のPRを行っていた。後ろの掲示には、かなり私にとっても懐かしい写真があった。

JA8ICG 菊地さん(私との最終交信は2004年5月29日)が函館モールス同好会会長であった時分、私が事務局を務め、湯川で和文のつどいを開いたことを思い出した。

一アマから和文の試験がなくなってからは、自分の意思で、和文の門を叩く方のみとなっており、運用者の高齢化が進んでいると考えられる。しかし、点と棒のみの交信にも関わらず、日本語のコミュニケーションが成り立ち、また日本語の美しさが光る名文が飛び交うこの文化は、次代に伝えたいものと思っている。今後教材などを作り、その保存、普及につとめていきたいと考える。

⑧ACC(The international Award Chasers Club)

KCJのブースの斜め向かいで、賑やかに展示をしているグループがあった。ACCの皆さんである。掲示物もとても目立つし、魅力を感じる。

時折り、大きな拍手が起こるので、何かと思い、訪問してみた。

そうすると右のようなACCアイボールAWARDを発行していた。メンバー3人とアイボールQSOをするという条件である。言うなれば、メンバーがそこに3人いるわ

けで、そのブースへ行けばもらえるという
 アワードである。私もいただき、メンバー
 から拍手をもらった。このような PR も効果
 ありだなあと感じた。

⑨ CW ops (スイーダブリューオプス)



Membership of CWops is
 a vote for the future of CW.
 by Jim N3JT

CWops - CW Operators <https://cwops.org/>

CWops (スイーダブリューオプスと発音) は、2010年に米国にて設立された CW クラブで
 す。多くの著名な CW オペレータが在籍しており、その入会には国際モールス符号 25wpm
 以上のスキルを有していることが求められます。

To become a CWops member you must be capable of sending and receiving
 International Morse Code (CW) at no less than 25 words per minute and
 should be capable of carrying on a conversation in English using CW.

私も CW では、そこそこできると思っ
 ているところだが、このクラブの入会条件が
 25wpm 以上の送受信ができるということ
 である。さらに英文を読むと英語の CW
 でコミュニケーションができるということ
 である。ここまでは私にはできない。

ただ、それだけのスキルを積むための
 研修の場や、30wpm を超えるコンテスト
 スキルの育成も行っているとのこと。
 30wpm はどれだけの速さか。ちょっと手
 元のリグで打ってみた。打てる打てる、そ
 してこの速度なら、普通の交信だったら
 できる。平文を打たれたらたまらないが。
 でも打ったら間違い続出になると思う。も
 っとゆっくり正確に打ちたいなあと思うの
 で、こんなすごい CW のクラブもあるんだ
 なということで、ブースを後にした。

⑩ ブースの前は、トレードマークの赤が
 まぶしい JLRS (Japan Ladies Radio
 Society)

北海道のメンバーが集まり、仲良くブ
 ース掲示をし、通りかかの方とお話をし
 ていた。また、公開運用中という小さな旗を
 立て、ハンディ機でクラブ局の運用を行



っていた。

メンバーのコールを見ると、ベテランに
 交じって、JM8 の若いコールが目立ち、
 彼女たちにとっては親睦を深め、また、
 アマチュア無線の楽しさを知るとてもい
 い機会になったのではないかと思う。メン
 バーの中によく、CW で出会う方もおり、
 挨拶を交わした。また、せっかくだった
 ので、目と鼻の先で 2m ぐらいしかはなれて
 いない間隔ではあったが、交信をしてい
 いただき、カードをいただくことができた。

のぼりと
 いうと、外
 に立てる、
 大きな旗を
 イメージす
 るが、JLRS
 のブース
 には机の上
 にちょこん
 と載るミニ
 のぼりがあ
 り、とても
 いい演出を
 していた。

TO RADIO

JH8 CBH/8 J H B C B H

Confirming Our QSO From JA1YWMM (札幌市東区移動)

DATE			TIME	RS	BAND	MODE
Day	Month	Year	JST		(MHz)	
30th	September	2023	12:27:59		MU	FM
RIG	ID-51	OUTPUT		1W		
ANT	ホイップ ANT					
OP	JM8CHD					

Japan Ladies Radio Society では、「YL
 -10 局賞」等の既存のアワードに加えて、現在
 「トップレターアワード」を実施しております。
 皆様のご参加をお待ちしています。
 詳しくはホームページをご覧ください

de AUNE 北海道ハムフェア 2023 会場にて

Thank you

⑪ JARL 石狩後志支部

ラジオ作り教室を実施していた。青少
 年を対象にたくさんの数のラジオを用意

し、スタッフが対応していたが、実際にラジオを作ったのは、数個だったという。函館で開催した電波教室におけるラジオ教室でも人集めに苦労したということは同じであった。

このようなイベントでもなかなか小学生を連れてくる機会にならないようだ。孫の世代と考えれば、おじいちゃんに付いて来るということも考えられるだろうか。

「ラジオ」自体の魅力、そして、来場のPR、課題は、このブースに限ったことではない。盛況となっているラジオ教室は、公的な機関を通してのPRがあるとか、大きな青少年イベントの内の一つのコーナーであるとかが、鍵のようだ。また、「親子で」「爺孫で」などのペアでの案内なども検討していければと思う。

一方、ブース出展に対して、札幌ジュニアアマチュア無線クラブの子どもたちの活動が輝いていた。メンバーは小学生、中学生、高校生、大学生と20名近くいて、講習会参加時などで会員を募集し、育てているようだ。

会場の後始末などでも、椅子、机を片付ける作業を岡田支部長の指示のもと、テキパキと動いていた。無線技術を育てるのもそうだが、「人」を育てているというところが、とてもすばらしく、ハムフェア最後の光景に、後味もとても良かった。

⑫JARL 十勝支部

支部で、ブースを出していたのは、石狩後志支部と、十勝支部の2つと思った。他の支部もエネルギーがあつたら、是非出してほしいなあと思う。十勝支部は、本部長のおひざ元でもある。支部長は、体調不良で欠席ということであったが、支

部の元気いっぱいのOMさんたちとお話をした。

まず、圧倒されたのが掲示。写真の通りである。オリジナルのすばらしいものであった。「十勝」という名称はおそらく全



国区であり、イメージとしては、畑、牛等があがるであろう。どんな町があるのかどこにあるのか一目でわかる。

道の駅も多く、あちらこちらから移動運用の局の声が聞こえるそうである。

道の駅おとふけでは、連続テレビ小説「なつぞら」のセットも見ることができるそうだ。私は以前帯広の真鍋庭園にあつたときに訪問させていただいた。

十勝支部はマラソンQSOなどユニークな取り組みをされており、アクティビティの向上につながっているとのことであ

る。ブースには観光パンフレットもたくさんあり、アマチュア無線のPRもすてきだったが、観光としての十勝の魅力を存分にPRされていた。

6 最後のまとめ

行った人から話を聞くのも、このようにレポートに目を通して下さるのもとても勉強になる。しかし、行って見て感じるものは、伝聞で聞くとは大違いである。人とのネットワークができるのも大きな楽しみである。

もちろんいいものばかりではなく、がっ

かりする場面、それって違うんじゃないというような場面もある。それらも、次へのステップのエネルギーとなる。そして、「学ぶ」は「まねる」である。いい実践を自分たちの地区でいかに具体化し、アマチュア無線を楽しむ方を広げる、そして、楽しんでいる方にはより深く楽しんでいただけるよう、頭を働かせていたい。

今回の北海道ハムフェアのテーマ「新発見、再発見、社会に役立つアマチュア無線」まさにこれに尽きると思う。

2023/10/02 佐々木 朗 JH8CBH